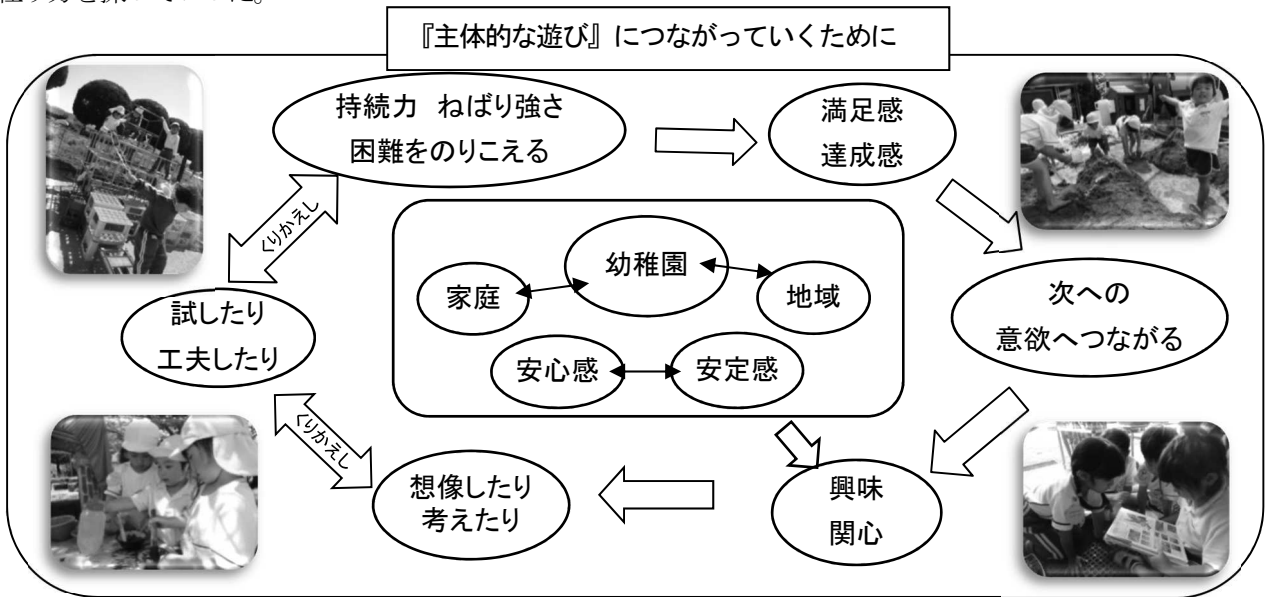


〈研究主題〉 『やってみよう』から『主体的な遊び』へとつながる保育をめざして

～ 心が動く、体が動く子どもを育てる ～

教育目標を「豊かな感性を育み、主体的に生きる力の基礎を培う」とし、主体性の発達を「やってみよう」「やってみる」「やり遂げる」と捉え、それぞれの年齢から読み取っていきながら子ども達の思いが「主体的な遊び」につながっていくための保育の在り方を探っていきたいと考えた。そこで、研究主題を上記のように設定し「やってみよう」と思ったことを、子ども自らが周囲の環境に働き掛け、試行錯誤を繰り返す中で、どのようにすれば「主体的な遊び」へとつながっていくのか、保育者の意図やねらいを照らし合わせながら、環境構成や援助の在り方を探っていった。



保育者の援助

- ・信頼関係を築き、安心感や安定感をもてるようにする。
- ・一人一人の発達や内面を理解し、子どもの気持ちや思いを受け止める。
- ・一緒に遊びを楽しむ。
- ・子どもにとってのモデルとなる。
- ・子ども自身が気付いたり、考えたりする姿を大切にし、子ども達の育ちや学びへとつなげられるようにする。
- ・友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じたり、友達のよさに気が付いたりできる場をつくる。
- ・保育者間で共通理解し、連携を図りながら、子ども達にかかわる。

環境構成

- ・安心して過ごせる空間をつくる。
- ・興味や関心をもってかかわりたくなるような教材や素材、道具を準備する。
- ・季節や子どもの発達に応じた教材を準備する。
- ・遊びに見通しをもちながら環境構成をする。
- ・じっくり考えたり、試したりできる時間や場を確保する。
- ・次の意欲へとつながるような環境の再構成をする。

各学年の主体性の発達について・・・

- 3歳児 …… 一人一人が、安心していろいろな環境に出会い、かかわってみようとする  
『やってみよう』
- 4歳児 …… 保育者や友達とのかかわりの中で葛藤を経験しながら、自分を十分に発揮する  
『やってみよう → やってみる』
- 5歳児 …… 友達と力を合わせて活動する中で、友達関係が深まり学び合えるようになってくる  
『やってみよう → やってみる → やり遂げる』